

当科におけるクリニカルパス導入経験

厚生連上越総合病院耳鼻咽喉科

五十嵐良和

これからの医療に求められること

1、説明と同意に基づく医療

(インフォームド・コンセント)

2、診療内容の開示

(クリニカルパス、カルテ、治療成績)

3、Evidenceに基づく医療行為(EBM)

クリニカルパスとは？

煩雑な生産工程を効率的に管理するため、
作業行程を時間軸に沿ってまとめる方法。

1950年代より、欧米で使用。

クリティカルパス(CP)

CPを診療に導入し、標準化をめざす。

クリニカルパス

今回のクリニカルパス導入手順

1. **準備段階** パスの形式と目的を確認。
2. **第一段階** これまで使用してきた指示をパス形式に、書き込んでみる。
3. **第二段階** スタッフと検討し、過不足、あいまいな内容を修正。
4. **第三段階** 実際に使用し、問題点を検討。さらなる改善をめざす。

パスの導入目的

基本目的

診療の効率アップと、均等で高いレベルを両立。

スタッフ間で ...

指示を単純明快にし、雑多、あいまいな点をなくす。

申し送りミスによる医療過誤を削減。

患者さんに対して ...

診療内容を公開し、

診療に対する信頼度・満足度を向上させる。

パスの形式は？

1. スタッフ用

見間違えにくい、簡潔なものが望ましい。
専門用語使用可。 今回導入

2. 患者さん用

詳しく、かつ、わかりやすいものが望ましい。
絵を豊富に、専門用語はダメ。

スタッフ用パスの単純流用は難しい。
旅行スケジュール表のような形式が良いか？。

作成したスタッフ用パス

手術日 術後
術前 ・ 術後 1病日 2病日 ...

看護関係

清潔 ・ 安静度

食事

バイタルチェック

治療関係

点滴

内服

処置

パス導入による利点

1. 診療行為をパスにまとめる過程で、
雑多、あいまいな指示を確認修正できた。
効率アップにつながる。
2. スタッフとパスを検討することにより、
診療行為に対する認識の相違
(医師側の無知)を自覚、反省できた。

パスの課題

- 1 . **パスと診療コストを一元化しにくい。**
パスは、あくまでもスケジュール表。
コスト箋やコンピュータへの入力は、なくせない。
- 2 . **パス作成者(医師)の独善におちいる危険性。**
パスを公開し、いろいろな立場の人の意見を取り入れ、随時更新する必要あり。
(学会報告 、インターネットでの公開など)

インターネット上で 医療情報を公開することに関して

利点 費用が安い。

随時、最新の内容に更新可能。

誰でも気軽に情報を提供、入手可能。

問題点 セキュリティー。

個人(患者)情報漏洩のおそれ。

虚構のない情報を提供することが必要。